

第1回 十和村史続編編集委員会 議事録

1. 日 時 令和5年6月21日(水) 10:00-11:30

2. 場 所 十和地域振興局2階第1会議室

3. 出席者 委員 富田 努
委員 芝 瑞穂
委員 山本 美知代
委員 酒井 寿哉
委員 岡本 順一
委員 仲 治幸

副町長 森 武士
事務局(十和地域振興局町民生活課)
課長 畦地 永生
副課長 林 誠

受託業者(株式会社ぎょうせい)
藤山 氏
北井 氏
竹田 氏

欠席者 なし

4. 議 事

事務局 : ただいまから第1回の十和村史続編編集委員会を開催します。
開催にあたりまして、副町長よりご挨拶を申し上げます。

(副町長より挨拶)

事務局 : ありがとうございます。

(事務局より資料に基づき説明)

事務局 : 本編集委員会におきましては、原則公開することとして、また会議終了後には議事録要旨を委員さんに、ご確認頂いた後に公開する予定です。これに関しましては公開ということで構いませんか？

委員一同 : はい。

事務局 : では公開ということで。
続いて、委員長の互選についてです。
その前に今日は、ぎょうせいさんも来ていただいておりますので、委員さんはお互い知った方ばかりだと思いますけれども、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

(事務局、委員、ぎょうせいより自己紹介)

事務局 : ありがとうございます。それでは、委員長を決めたいと思いますが、「委員長は各委員の互選によって決める。また、副委員長は委員長が指名する」となっております。皆様には委員長についてご協議いただきたいと思いますが、推薦や立候補などないでしょうか？

(委員による協議の結果、岡本順一さんが委員長となる)
(委員長の指名により芝瑞穂さんが副委員長となる)

(岡本委員長より挨拶)

岡本委員長 : スケジュールにつきまして、ぎょうせいさんからご説明をお願いします。

(ぎょうせい藤山氏より資料5に基づき説明)

岡本委員長 : はい。では、スケジュールについて説明がありました。このことに関して、なにかありませんか。

藤山氏 : 次の方に移ってもよろしいですか？

委員一同 : はい。

(ぎょうせい北井氏より資料6に基づき説明)

藤山氏 : 一番のポイントは助言のところですね。いきなり昭和 59 年以降を書くのか、それともやっぱり過去の十和村の歴史みたいなのを相当圧縮して 20 ページに圧縮してから、ちょっと流れを作った上でこの原稿に入るのか。そこはポイントになると思う。いかがでしょうか？

山本委員 : 私個人の意見としては、それがあつた方がいいんじゃないかなと思います。空白期間があるので、それで今回これを作るに至ったということを書いたらどうかとは思いますが。

藤山氏 : いきなり読み手が昭和 59 年からになると、なんか読みづらいというか、そういう過去のことは分からないまま進むよりは、そっちの方が良いかなという気がします。他の方どうでしょうか。

仲委員 : 昭和 59 年から見るんですかね？

藤山氏 : おそらく作られた時期と、ちょっと空く場面があると思うので、実際は 57 年ぐらいから入れていく形式です。その前は先ほど言った古代から相当圧縮した形の 20 ページを付け加えるという感じでしょうか。おそらく発刊した時期と、内容と現在が少しずつれていますから、単なる 59 年じゃなくて、おそらく 57 年ぐらいから入れていかないといけなのかなというところはあると思います。

富田委員 : 自分もそのプロローグとして、昭和 59 年以前の歴史が必要だと思いますし、第 1

編が第1章から各論みたいな形に入っているの、その前段の部分として歩みというのがそもそも入るとい事は絶対必要だと思います。

藤山氏 : 要は昭和59年以降だけではなくて、先の20ページの概略ですね。いきなり始めるのではなくて、これまでの歴史に触れながら入っていたほうがいいんじゃないかという、ほかの委員さんの意見もあるのですが、それはどうでしょうね。

酒井委員 : その方がいいと思います。

藤山氏 : 委員長さんその辺で構いませんか。決裁ということで、そんな流れでお願いします。ここの目次のところはいいでしょうか？これであと、9月末ぐらいに資料をいただいた上で、これよりもっと細かい目次を作っていきたいと思っています。もう概略としてはこんな感じが通常かなと思うのですが一応骨格はこんな感じでよろしいでしょうか？

富田委員 : 第三章 警察って妙に違和感があるんですけど。妙に具体的で。

北井氏 : 新しいその右下の方の目次案だと、第3章の社会基盤の整備に入ると思います。それで、警察とか郵便局とか直接的に行政が担っている事業・業務じゃない部分っていうのは、市町村史が行政史だっていうふうに割り切れれば入れなくていいという事にもなりますけど、やっぱり村全体の歴史っていうことで考えれば、行政の直接担っているものだけじゃなくて、いわゆる公的な役割を担っている団体とか機関というもの、動きっていうのも入れた方がいいというような事になりますし、多くの市町村史では、そういうところも、触れている事が多いと思います。

富田委員 : それもまたこれからの整理ですね。

岡本委員長 : 第1編 郷土の歴史については右下の箇所提案されているので、こちらの方で進めていきたいと思っています。

藤山氏 : そうですね、一編以降はですね。

岡本委員長 : 左側の郷土の歴史の中では、やっぱりいいきれないというか、その分野に入らない部分もだいたいあるかなという気がしています。右下の方が確かに福祉、保健・医療については重なる事もあると思うんですけど、そういう面では、こちらの方がいいのかなと思います。

藤山氏 : それでよろしいでしょうか。

委員一同 : はい。

藤山氏 : ではそれで進めるという形で。また9月末までの資料お待ちしております。

(ぎょうせい藤山氏より資料7に基づき説明)

藤山氏 : 文体については「ですます調」でいくということでよろしいですか。

岡本委員長 : それでよろしいです。

- 藤山氏 : では、「ですます調」でいくということ。
そしてこの地名とか、いろいろここに書いていますが、ここら辺はもう基準で見えていただいたら、これはごく一般的なところになりますので。次の2ページ目、めくっていただいた赤のところですね。「㌢」とか「㌣」のような1文字で記載する方もありますが、ご検討くださいということで、「㌢」を長くすると「センチ」で3文字、「センチメートル」で7文字使うんですよね。それがあんまり本文と意味のないことなので1字ぐらいでしたらどうでしょうかという問い合わせなのです。どうしても読んだら縦長の方が見やすいという事があるかもしれませんが、そこら辺はどうでしょうか。
- 北井氏 : 1文字に収める時、1文字を片仮名で表記するものもありますし、もちろん、こういう記号を使うという方法もあるのですが、一般的に縦書きだと数字は漢数字を使うのが一般的なので、その漢数字とこういう記号の親和性があんまりないということで縦書きの場合は片仮名で表記するのが多いんですよね。ただ、さきほど説明したように、「センチメートル」とか全部片仮名だと非常に長くなって、それだけで文量が増えてしまうこともあるので、そういう1文字の片仮名という表記もあります。これも絶対ないかといえなくもないのです。
- 仲委員 : 例えば、「センチメートル」を「cm」に表示すると。
- 藤山氏 : アラビア数字みたいなんですね。「cm」。
- 仲委員 : 「cm」という風に表示するのか、この通り片仮名で表示するのか。
- 藤山氏 : そうですね。1文字で収めるとなるとなかなか。「c」と「m」になりますよね。センチはセンチです。もうメートルなしになります。「cm」は。
- 富田委員 : パーセントはどう思いますか。片仮名で「パーセント」の5文字。
- 北井氏 : 「センチメートル」の場合はこうすると、全然わかんないでしょう。だから「cm」の場合は、「センチ」だけになると思います。
- 仲委員 : その「c」「m」の表示をすると、2文字使うという。
- 藤山氏 : 「㌢」1文字だけで済みます。これで1文字。
- 仲委員 : で「㌣」と下にくると。
- 北井氏 : またどうしても、その「センチメートル」を「メートル」まで付けないと解らないという場合は、「メートル」の方は1文字にしないで、こうなると思います。
- 岡本委員長 : 「センチメートル」と「cm」要は一緒のことですね。
- 藤山氏 : 何メートルの時は、またあれですね。
- 北井氏 : センチだったら後に続くのはメートルしかないのですが、「㌣」の場合は1文字にしたらかうなるのですが、これで「キロ」だけだったら「キロメートル」か「キログラム」かわからないですよね。そういう場合はこういう風になりますよね。

岡本委員長：前後の表記で、そのことがわかるような書き方にはならないのか。

北井氏：それはちゃんと読んでいただければどっちかなってというのはわかると思いますけどね。親切にしようと思えばやっぱり、この場合はどっちかわかるような書き方のほうが良いとは思いますが。

芝委員：その「k」と「m」とかだったら1文字。

藤山氏：「km」1文字になりますね。またその基準が決まれば全部こちらの方で直していきます。

北井氏：漢数字だったら、やっぱりこれよりもこっちの方がまとまりがいいかなって感じがするので、一般的にこっちの方を使うのですが、これでも別におかしくはないですよ。

仲委員：それは年表のような数字ですよ。

北井氏：一般的には縦組みだと漢数字使いますが、算用数字を使っている市町村史もあります。

藤山氏：算用数字を使った例を挙げてもらっていいですか。

北井氏：7km。で2桁の場合はこういうふうにならなくて1文字分になります。一番ダラダラとした感じがなくて、文字数が少なくて済むのはこっちでしょうね。

仲委員：例えば「二百五十五センチメートル」と漢数字で書いたときには、ものすごく長くなりますよね。で、もしその学校の方で教材として使う場合、例えば「センチ」の表示だったらメートルが付いてないので、子供たちが勘違いをするかもしれない。

北井氏：漢数字の場合も、「十」「百」有りっていうのにとめちやくちや長くなるわけですよ。ただ、漢数字を使う場合でも、年号は別として普通の数字はこういうふうにならなくて「十」「百」無しの方で表記するのが一般的ですね。
今日、決めていただかなくても大丈夫です。

藤山氏：そこら辺を検討してください。それでもう1つ、年号表記が割とバラバラなところがあります。最近の傾向について、北井の方から説明します。

北井氏：年号の表記については、まず平成とかその元号ですね。元号と西暦を併記する場合と、その年号西暦だけの場合と、元号だけの場合とがあります。併記する場合でも、年号すべてにこれを入れる場合と、各項目の初出のみ併記する場合とあります。

それで、その併記する場合のパターンもいくつかありまして、さっき言ったその「十」を入れる場合ですね。①から④までは「十」がある場合で、⑤から⑧までは「十」がない場合です。「二三」と書くか「二十三」。こちらが算用数字で書く場合です。

併記する場合でも、元号を先に持ってくるパターン。西暦を先に持ってくるパターン。それから年を先にかっこ西暦前にする場合と後に持ってくる場合と両方あります。ただ私の感覚ですと、年だけだったらどちらでもあまり違和感ないと思うのです。

けど、「年度」の場合があるんですよね。年度とか年代とか。そういう場合、これで年を持っていくと、年と度が別れることになるので、違和感があると思うんですよね。年と度の間にこれが入ってというのは、この間に、度を入れる場合もありますけど。ただ、そうすると、この元号と西暦の数字が離れるので、見やすさとか、年度という場合でも違和感がないのはこちらかなという、年をかつこの後に持ってくる方が違和感ないかなという気がします。

和暦が先か後かは、さきほど言いましたけど「十」ありの場合はその分だけ文字数が増えますが、これ見ていただいてわかるように、漢数字の一二三の場合は、続くと分かりにくいので、こちらの方がわかりやすいというか、数字の間違い読み違いがなくなるのでこういうふうにする場合もあります。これは年号だけの話です。

年号以外の普通の数字はさきほど申し上げたように、全部「十」「百」無しの方になります。算用数字を使う場合、これは、新聞なんかこういう表記なんですよ。新聞とか多くの雑誌でこういう表記をしています。縦組みでも算用数字使います。算用数字の場合はさきほども言いましたけど、2桁の数字の場合は1文字で半角数字で表せるっていうことになるので、12のパターンがあるので、そのうちのどれか1つを選んでいただくということになります。

岡本委員長： 作成する場合は、この全部が正解ですよ。間違いはない？

藤山氏： 間違いはないです。従来は「十」有り「十」無しのパターンが通常のパターンです。

北井氏： 昔の本だったら、もう元号だけっていうのも結構多いですよ。

藤山氏： 僕らの年代は和暦の方が先です。和暦が先で後西暦ですけど、今頃はもう西暦が先の方が分かりやすいので。

北井氏： その話に関してなんですけど、昭和時代だけの歴史だったら、わざわざ断るまでもなく、これは元号だったら昭和だとわかるので、一続きの流れとして分かるんですけど、平成と令和とかですね。昭和と平成とか2つ以上の元号が入るような歴史を書く場合は、全体の流れとしては西暦を先に持ってきたほうが、つながり具合が分かりやすいと思います。

岡本委員長： 3つの年代ですからね。昭和、平成、令和。

北井氏： 今回は昭和と平成が入るので、そういう意味では元号よりも西暦を先に持って来た方が良いかなという気がしますけどね。

仲委員： イメージ的には、元号が先。西暦というイメージがあまりない。行政側はほとんど元号の何年度です。

北井氏： そうですね。行政の方が主に読むっていうことを想定されるのであれば、そのほうがいいかもしれませんね。ただ、例えば学校でその郷土史の勉強に使うとか、子どもたちにも読んでもらいたいということになれば、その観点というものはあるかもしれません。

岡本委員長： 今は西暦が主要である。いろいろなところで。

藤山氏： そうですね。

北井氏 : 近代の歴史を見るとやっぱり元号だけしか書いてない。

芝委員 : 平成 23 年って部分だけ見たら算用数字がいちばん見やすい。パッと 23 年で分かる。こっちのだと二十三年って読まんといかんみたいなの。

仲委員 : 視覚的にわかる。

北井氏 : 今の十和村史は全部元号だけです。

岡本委員長 : 決めましょうか？

藤山氏 : それでは多数決で。

「十」有りか「十」無しか、算用数字か。「十」有りは「二三年」の「二三」と書くのではなくて、真ん中に「十」を入れるやり方。そして真ん中の「十」無し、あとは算用数字。まず「十」有りがいいと思う方は、3 人。「十」有りて決定でよろしいですか。

富田委員 : 「十」有りと「十」無しで言えば、「十」有り。「十」有りと算用では、少し悩みます。

酒井委員 : やっぱりその算用数字の方が、パッと見た時に分かりやすいのでは？

藤山氏 : では、「十」有りと算用数字で挙げますか？(全員算用数字に挙手)

では算用数字で決定で委員長さんよろしいですかね？はい、それでは算用数字ということ。もう一つは、和暦が先か西暦が先かですが。

だいたい皆さんの頭の中に描かれていますか？じゃあ、和暦が先の人、2 人。ということは、西暦が先ということよろしいでしょうか？

ではそれで委員長さん決裁。11 と 12 だったらその位置、年の位置ですね。年が先ほど北井の方が言ったように、一番後ろにつけたほうが年度とか年代とかになるので、12 と 11 のどちらかという、12 がお勧めだなという感じがしますが、これよろしいでしょうか？

岡本委員長 : 12 番決定ということよろしいですか？

委員一同 : はい。

藤山氏 : 12 ですね。ある程度決定したというところで、最後に表や写真です。そこまで資料があるのかどうかわからないのですが、図表 1 とか図表 1-2 とか、枝番を付けたら、図表もあるのですが、そういうのが必要かどうかということですけどね。

北井氏 : 原稿が仕上がってからの話になると思います。各章に 1 つか 2 つぐらいしかないのであれば、枝番をつける意味があまりないので、通しにしますし、かなり入るのであれば枝番をつけた方がわかりやすいことになりますので、それらの原稿が出来てからでいいと思います。

藤山氏 : 基本的には、そういうことよろしいでしょうか？あと四編以降なのですが、用字・用語の統一基準ということで、基本的にはこういう文でという形でよろしいかと思えます。例えば次のような代名詞は原則として漢字で書くとか色々あるのですが、これはもうほとんど決め事みたいなもので、こういう基準でチェックさせていただきま

す。ということを書いております。

これも了承いただいた方がいいかなと思います。何かこの中で違うラインがあれば、またそれを基準として新たに決めていきますが。

北井氏 : 原稿段階では、必ずしもこれに沿ってきちんと書いていなくても、最終的にゲラにする段階ではすべてきちんと統一してからゲラにしますので、その辺はチェックしていただかなくても大丈夫です。

藤山氏 : また、こうしたほうがいいよと言うご指示があれば言ってもらえればと思います。特に動植物とかそういう名目が出てくるときに、基本的には片仮名で書くのが今の流れなのです。どうしても漢字じゃないといけないときは、それは統一してやっていきますので、また言っていたらと思います。以上が、統一基準の説明でございます。

次に、事務局さんと先生方にも、もし、こういう資料があればというものを一覧で最後につけているのです。これについて北井の方から説明させていただきます。

(ぎょうせい北井氏より資料8に基づき説明)

事務局 : 議会だよりはあります。

北井氏 : それから、当時その村の出来事について、その新聞記事があった場合は、それを切り抜いてスクラップしていたと思うのですが、そういうのは残っていますか。もしそれがあれば、かなり使えると思うのですがね。

富田委員 : そういったものは、高知新聞さんに問い合わせて入手できませんか。

藤山氏 : 項目をまず見ていただいて、マーカーして必要な物だけを取り寄せることも当然一覧でしています。その入手の時にお金はいりますか？

富田委員 : いると思います。

藤山氏 : 向こうで閲覧ができるじゃないですか。直接でもその中から取捨選択しなくちゃいけないということで。送ってもらうとおそらくそれはそれでお金が別に発生してくるし。

山本委員 : 知った方が、結構スクラップしてあるとは思いますが。

北井氏 : それはそういう方がいらっしゃったら、ぜひお借りできたらありがたいですね。

藤山氏 : それ以外のものをまた高知新聞さんで見つけてもらったらいいことで、提供いただけたらありがたいなと思います。

北井氏 : それから小中学校や幼稚園、保育園の何十周年記念誌ですね。作られているところもあると思うのでそういう本や、閉校になったら閉校記念誌を作らなと思うので、学校についてはそういう風につくる。それから総合計画、過疎地域活性化計画、過疎地域自立促進計画などの、その総合的な計画ですね。それから十和村発足の30周年とか40周年の記念誌を作っているのであれば。

山本委員 : 閉村記念誌を作った時に歴史的なことは載せませんでしたかね。

富田委員：載せました。

(ぎょうせい北井氏より資料8に基づき説明)

藤山氏：基本的に、おそらく事務局さんが主体的に資料集められると思うのですが、委員さんの中でもこういう資料があればご提示頂けたらありがたいと思っています。

北井氏：それから資料と同時に写真についても残っていますか。広報で使った写真をちゃんと残しているのかどうかというのわかりますか。かなり、写真の収集も苦労するじゃないのかなと思いますので、みなさんのご自宅とかですね、お知り合いの方で、こういう昔の写真持っているよという方がいらっしゃったら、ぜひ提供お願いしたいなと思いますので、その資料プラス写真の収集についてもお願いしたいと思います。

仲委員：写真についてはすでに作っている冊子、それからも取り出しできますか。

藤山氏：できます。ただ、その冊子に著作権があるのであれば、事務局さんに確認していただきます。役場さんが作ったものであれば全然問題ない。

岡本委員長：59年以降ということね。

藤山氏：基本的にはそうですね。例えば口絵にカラーの写真の時に昔の十和村のイメージできるようなものがあれば、別にそれは年代に関わりなく入れてもいいんじゃないでしょうか。

北井氏：口絵はカラーですので、できるだけいい写真を載せたいわけですがけれども、最初の口絵に村の全景とか空撮写真とかそういうのを載せるところも多いので、それについては、今撮ってもいいかなと思いますけどね。

藤山氏：白黒写真をセピア系にしたいとか、少し色を付けたりとかいうことも可能でございますから。

北井氏：このリストに沿って集めていただいて、目処としてはその細目次を作る関係がありますので、9月までに、ひと通りこれを集めていただきたいなど。

仲委員：9月までっていうことは9月いっぱい構わないですか。

北井氏：はい。

富田委員：これをもとに作り上げていくものっていうのは、一定メリハリのあるものになるのですか。例えば、この出来事はかなり重要だから、ある程度ボリュームを取って記載をしたいとか、こっちはさらっと流すよとか。

北井氏：当然そうなると思いますね。

富田委員：そうすると、やっぱりここに居る委員さんが、この出来事はすごく旧十和村にとってターニングポイントになった部分があるので必ず入れて欲しいとか、そういうのを議論する場っていうのはどっかで設けたら。

- 藤山氏 : ぜひお願いしたいですね。これはもう適宜事務局さんからお声をかけていただいて、やっていただいた方が良くかなと思います。
- 富田委員 : 副町長もちらつと言われた黒歴史のことも当然必要であるでしょうし、振興計画とかも最初の方触れていましたけど、旧十和村が最初に作った「十和ものさし」が今でも外部から結構評価を受けていて、振興計画で街づくりのバイブルとなってきたところもあるので、そういったものが力を入れて載せてとか。他にも企業さんで四万十ドラマさんとかおかみさん市とか育ってきた経過とか沢山あると思うんですけど。
- 北井氏 : それと、ちょうどその時バブル経済が盛り上がり、それが破綻したという時期にもなりますよね。だからいろんな夢のような計画を作って、それがバブルの崩壊で途中でこうなったみたいな話っていうのも、事業として成り立っていないものについても、やっぱりこの段階で残しておくっていうのは、一つの市町村史の意義でもありますので。そういうのについては表に出るような資料というのはあまりないかもしれないので、それについてはぜひ皆さんのお力を借りられたかなと思いますけどね。
- 富田委員 : 一回そういう話をする場を設けてはどうでしょう。
- 北井氏 : そういうのをを出していただければ、こちらとしても非常に書きやすくなりますので。
- 岡本委員長 : 年表的なものが出てくると、こんなことがあったかもと資料として見やすいかもしれないですね。
- 北井氏 : そうですね。まず年表を先に作りましょうか。とりあえず、今頂いている広報でどれだけ拾えるかなんですけどね。さきほども言いましたように、広報には、細かいそういう行事とか、事業の記録っていうのは残ってないんですよ。年表を作る際に、参考になるような資料というのがありますか。広報以外で。
- 富田委員 : 閉村記念誌にあることないですか。
- 事務局 : 下にあります。
- 北井氏 : もしすぐに揃うようなものがあれば、細目次の前に年表作ってお送りしますので、それがあれば議論しやすいですよ。
- 藤山氏 : それに追加をすると。
- 岡本委員長 : 今、ぎょうせいさんからご説明をいただきました。このことに関しては、その時その時にご指摘を頂きましたけど、他にはないですか。進める上でいろんなものが出てくると思います。この資料というのが、事務局さんが主体になって集めてくるということですが、委員からもいろんな資料が出せるようだったら。そしたら今日の議題に載ってないようなことで、何か質問とかありましたらお願いしたいと思います。
- 仲委員 : この委員さんだけが集まる場合もあるわけですかね。
- 委員長 : そういうことが必要になればですね。

- 仲 委員 : 会長さんの指示で。
- 藤 山 氏 : 簡単な年表が出来てからですかね。それを送ってから会を開いていただいて。
- 富 田 委員 : スケジュール的に言うと、その資料をこれから集める数ヶ月の間の途中でそれが存在するわけですね。
- 岡本委員長 : それで前の回でもありました、こういう時にはこの人に聞いたらとかいうのは、その都度その都度話を聞くなどしてお願いしたいと思います。
- 富 田 委員 : 担当課の方で、そもそもこの計画はあったのかなかったのかを調べてみては。事前に聞いて、最初からないものを探す必要もないし。
- 岡本委員長 : 書類の整理をした時に、歴史的なものは残すというような兼ね合いもあって、これは捨てるということをやった時期があったと思うのですが。ファイリングした時に。10年20年そのままあったりしても、歴史的なことは残そうということがあって、それがどっかの隅っこに残っているかもしれません。
- 仲 委員 : 結構書庫に資料として残した分があると思う。
- 富 田 委員 : そもそもこんなものを作っていないよっていうものも、中にはだいたいあるんじゃないでしょうか。なので、聞く機会があったらいいかもしれない。
- 事務局 : 1回この全体の資料を読み返してもらって、これは絶対なかったというのがあったら言ってもらったと思います。
- 岡本委員長 : その他ありませんか。ないようであれば、今日の会はこれで終了したいと思います。どうもお疲れ様でした。

11:30 終了